

§ 7 京都市はどんな循環型社会を目指すの？

京都市が到達を目指す，以上のような取組の結果としての循環型社会は，「行政サポートのもと，市民・事業者が自主的にごみの減量・資源循環に取り組んだうえで，残ったものについては，徐々に非焼却による資源循環型へと移行するが，それでも残るものは焼却により行政が適正に処理処分する」社会です。それは下の図表のように表現されると考えます。

こうした社会を目指すためには，市民・事業者が自らのライフスタイル・ビジネススタイルを見直すとともに，それらのスタイルに根ざしたサービスや付加価値の高いものの製造など産業の活力も維持・増強される必要があります。

この「中間まとめ」で提示した将来イメージは，京都が長い歴史のなかで育んできた伝統的価値観・ライフスタイル・産業の姿を21世紀型に再創造するものであり，循環型社会構築に向けての「洗練された京都スタイル」として発信していくことが望まれます。

【キーワード】 ライフスタイル徐々に改善，発生抑制・再利用重視，ごみ処理費次第に減少

【社会イメージ】 無駄なものは買わない，ものは大切に使うなど，現在のライフスタイル・ビジネススタイルをちょっと改善すればできることから順次，市民・事業者自らが取り組む。
市民自らが自覚を持って取り組むことが必要で，事業所も自主的努力が必要。物の消費量は減少するが，修理・再利用などのサービスや，価格は高いが長く使える逸品の生産・販売などにより，産業の活力は維持・増強される。
行政が備えるべきごみ処理設備は，焼却中心から厨芥類等のバイオガス化によるガス発電など，非焼却による資源循環型へと移行する。

